

市職員アンケート調査票（素案）

あなたご自身のことについて教えてください。それぞれ 1 つずつ 選び、
回答欄に数字を記入してください。（令和 7 年 8 月 1 日現在）

		回答欄
性別	①男性 ②女性 ③その他 ④回答しない	
年齢	①24歳以下 ②25歳～29歳 ③30歳～34歳 ④35歳～39歳 ⑤40歳～44歳 ⑥45歳～49歳 ⑦50歳～54歳 ⑧55歳～59歳 ⑨60歳以上	
現在の職種	①事務職 ②技術職 ③保育職 ④医療・保健職 ⑤消防職 ⑥教育職 ⑦現業職	
現在の役職	①担当者 ②主任 ③係長・主査 ④課長補佐 ⑤課長・次長 ⑥部長	
配偶者の有無 (事実婚を含む)	①あり ②なし	
(配偶者ありの方) 配偶者の雇用 形態	①正社員・正職員 ②契約・派遣社員 ③パート・アルバイト ④自営業 ⑤家事専業・無職 ⑥その他	
世帯の状況※	① 子どもはいない ② 未就学の子どもがいる ③ 小学校 1 年生から 3 年生の子どもがいる ④ 小学校 4 年生から 6 年生の子どもがいる ⑤ 中学校 1 年生から 18 歳までの子どもがいる ⑥ 19 歳以上の子どもがいる	①～⑥から選 択
	⑦ 介護が必要な家族はいない ⑧ 介護が必要な家族がいる	⑦～⑧から選 択

※ 同居・別居は問いません。2 人以上の子どもがいる場合は、末子の年齢で選んでください。

0 言葉の認知度について

問● 次に掲げる言葉を知っていましたか。それぞれ1つ選んでください。

	言葉の意味も含めて知っていた。	聞いたことはあるが意味までは知らなかった	聞いたこともないし意味も知らなかった
(1) 男女共同参画	1	2	3
(2) ジェンダー (gender)	1	2	3
(3) ダイバーシティ (diversity)	1	2	3
(4) 持続可能な開発目標 (SDGs)	1	2	3
(5) ジェンダー・ギャップ指数	1	2	3
(6) 性的マイノリティ	1	2	3
(7) L G B T Q +	1	2	3
(8) S O G I	1	2	3
(9) アウティング	1	2	3
(10) パートナリシップ宣誓証明制度	1	2	3

1 男女共同参画（社会）や固定的性別役割分担に関する考え方について

問1 横須賀市役所では次のことについて男女差があると思いますか。それぞれ1つずつ選んでください。

	男性のほうが非常に優遇されている	どちらかと言えば男性のほうが優遇されている	平等・男女差はない	どちらかと言えば女性のほうが優遇されている	女性のほうが非常に優遇されている
①仕事の内容・分担の重さ	1	2	3	4	5
②昇任・昇格のしやすさ	1	2	3	4	5
③職務経験を積む機会の多さ	1	2	3	4	5
④残業や休日出勤の負担の重さ	1	2	3	4	5
⑤組織や上司からの期待感	1	2	3	4	5
⑥休暇の取りやすさ	1	2	3	4	5
⑦育児休業や介護休業の取りやすさ	1	2	3	4	5

問2 今後、あらゆる分野で男女共同参画を進めるために必要なことは何だと思いますか。
あてはまるものを3つまで選んでください。

- 1 男女がともに社会や組織を支える一員であるという認識を持つこと
- 2 学校や社会教育の場での男女の相互理解や協力についての学習を充実すること
- 3 男性が家事・育児などをするに対する抵抗感をなくすこと
- 4 仕事中心の生き方・考え方を改め、ワーク・ライフ・バランスの取れた生き方をする事
- 5 家庭や地域活動に参加しやすい環境を整えるよう企業等に働きかけること
- 6 法律や制度の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること
- 7 女性の就業、社会進出をする支援やサービス等を充実させること
- 8 女性も積極的に政策方針決定の場へ進出すること
- 9 その他（ ）

2 女性の活躍推進について（回答は男女問わず全員、お答えください）

問3 現在の担当業務について、あなた自身、やりがいを感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 感じている
- 2 どちらかと言えば感じている
- 3 どちらかと言えば感じていない
- 4 感じていない

問4 仕事をする上で、お手本となる上司または先輩などの人物（いわゆるロールモデル）はいますか。

- 1 お手本にしたいと強く思える人が複数人いる（いた）
- 2 お手本にしたいと強く思える人が1人いる（いた）
- 3 お手本にしたいと思える人が複数人いる（いた）
- 4 お手本にしたいと思える人が1人いる（いた）
- 5 いない

問5 横須賀市役所では女性の管理職（課長級以上）への登用は進んでいると思いますか。

- 1 進んでいる
- 2 どちらとも言えない
- 3 進んでいない
- 4 わからない

問6 本市役所の女性管理職は令和7年4月1日時点で●%でした。
目標に到達していない理由についてのあてはまるものを3つまで選んでください。

- 1 これまで管理職を前提とした人材育成を行ってきていないから
- 2 女性管理職が少なく、目標（ロールモデル）としてイメージできないから
- 3 女性自身が管理職になることを望んでいないから
- 4 組織風土として、もともと男性管理職が多いから
- 5 仕事と家庭生活（育児や介護など）の両立が難しいから
- 6 管理職の業務量や業務負担が大きすぎるから
- 7 管理職の給与が業務量や業務負担に見合っていないから
- 8 管理職となる世代の女性職員数が少ないから

問7 女性職員を管理職に登用することについてどう思いますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 女性の管理職への登用は必要であり、積極的な方策を取る必要がある ⇒問8へ
- 2 ~~女性の管理職への登用は必要だが、自然増に任せるべきである~~
女性の管理職への登用は必要だが、積極的な方策を取る必要はない ⇒問10以降へ
- 3 現状以上に管理職への登用を増やすべきではない ⇒問9へ
- 4 女性を管理職に登用する必要はない ⇒問9へ

—(問7で1と回答された方、お答えください)—

問8 女性管理職の登用を進めていくには、具体的にどのような方策が必要だと思いますか。
ご自由にご記入ください。

—(自由記入欄)—

—(問7で3または4と回答された方、お答えください)—

問9 女性の管理職登用を必要がないと思う理由は何ですか。ご自由にご記入ください。

—(自由記入欄)—

3 ワーク・ライフ・バランスについて（仕事に対する考え・昇任について）

（全員、お答えください）

問 10 仕事をする上で、重視していることは何ですか。

あてはまるものを3つまで選んでください。

- 1 仕事に興味関心を持てること
- 2 仕事を通じた社会的貢献や社会とのつながりを実感できること
- 3 自分自身の成長が実感できること
- 4 時間的余裕や精神的余裕を持って仕事をする事
- 5 収入を得ること
- 6 地位を得ること
- 7 仕事以外のプライベートに支障が出ないようにすること
- 8 特に重視しているものはない

（管理職以外の方、お答えください。）

問 11 将来、管理職に昇任することを望みますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|------------------|---------|
| 1 昇任を望む | ⇒問 14 へ |
| 2 一定の条件が整えば昇任を望む | ⇒問 12 へ |
| 3 昇任は望まない | ⇒問 13 へ |
| 4 現在、管理職である | ⇒問 14 へ |

（問 11 で選択肢 2 を回答された方、お答えください）

問 12 「条件」とはどんなことですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

- 1 さまざまな職場や幅広い分野での業務経験の機会が与えられること
- 2 昇任前後のサポートをする研修や制度が整うこと
- 3 男女共同参画に対する職場全体の意識が向上すること
- 4 休日出勤や時間外勤務の削減など、働き方が見直されること
- 5 家庭での子育てや介護などの負担が軽減されること
- 6 管理職の業務量や業務負担が軽減されること
- 7 管理職の給与が業務量や業務負担に見合うように改善されること

（問 11 で選択肢 3 を回答された方、お答えください）

問 13 昇任を望まない理由は何ですか。あてはまるものを 3 つまで選んでください。

- 1 これまで管理職を前提とした人材育成をされてきていない
- 2 現在の職位で仕事を続けたい
- 3 仕事と家庭生活（育児や介護など）の両立に影響が大きい
- 4 管理職の業務量や業務負担が大きすぎる
- 5 管理職の仕事に対する魅力、やりがい、達成感や充実感が見いだせない
- 6 管理職の給与が業務量や業務負担に見合っていない
- 7 自分自身の能力や性格が管理職に向いていない

問 14 ワーク・ライフ・バランスのための職場環境づくりにおいて、必要なことは何だと思えますか。あてはまるものを 3 つまで選んでください。

- 1 管理職の理解
- 2 職場の同僚の理解
- 3 業務分担の工夫
- 4 育児・介護休暇、看護休暇、部分休業などを利用しやすい組織風土づくり
- 5 育児休業・介護休暇等制度についての周知・情報提供
- 6 育児休業後に円滑に職場復帰できる研修等の支援や職場状況などの定期的な情報提供
- 7 育児休業中の職場の負担軽減（代替職員の確保）
- 8 在宅勤務や時差出勤の導入などによる物理的・時間的・精神的余裕

4 男性の育児や介護への参画（回答は男女問わず全員、お答えください）

問 15 ご自身が育児休業や介護休業を利用することについてどう思いますか。

あてはまるものすべてを選んでください。

- 1 仕事の引継ぎさえすれば問題ない
- 2 上司や同僚に多少の遠慮は感じるが問題ない
- 3 業務が忙しく利用しにくい
- 4 職場が利用しやすい雰囲気ではなく利用しにくい
- 5 休業後の昇任が心配で、利用する気になれない
- 6 仕事に対する姿勢を疑われそうで、利用する気になれない
- 7 経済的に困るため、利用できない
- 8 その他（ ）

問16 男性の育児休業や介護休業の取得率が女性に比べて少ない理由は何だと思いませんか。
あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 職場の理解を得られないから
- 2 職場の同僚に申し訳ないと思うから
- 3 昇任や昇給に影響する恐れがあるから
- 4 休業後の職場復帰に不安があるから
- 5 仕事の量が多いから
- 6 仕事の責任が重いから
- 7 休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから
- 8 女性の方が育児や介護に向いているから
- 9 その他（ ）

問17 男性が女性とともに家庭生活や地域活動などに積極的に参画していくために必要だ
と思うものを1つ選んでください。

- 1 職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる
- 2 労働時間短縮や休暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする
- 3 男性自身の家庭生活や地域活動に参加することに対する抵抗感をなくす
- 4 社会の中で、男性が家庭生活や地域活動に参加することに対する評価を高める
- 5 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- 6 男性は積極的に参加する必要はない
- 7 地域活動やPTAに男性が参画しやすいよう、受け入れ側も柔軟な体制をつくる
- 8 その他（ ）

5 ハラスメントについて

問18 これまで職場でセクハラ（セクシュアル・ハラスメント）だと感じたことは
ありますか。あてはまるものをすべてを選んでください。

- 1 自分が被害を受けたことがある ⇒問19へ
- 2 他の人が被害を受けたと聞いたことがある ⇒問19へ
- 3 他の人が被害を受けたことを見たことがある ⇒問19へ
- 4 自分では自覚していなかった行為や言動を、セクハラだと指摘されたことがある
⇒問20へ
- 5 承知の上でセクハラをしたことがある ⇒問20へ
- 6 セクハラを受けたり、見たり、聞いたりしたことはない⇒問20へ

(問 18 で 1、2 または 3 と回答された方、お答えください)

問 19 実際にセクハラ被害を受けたり、相談を受けたり見たりした後で、あなたはどのような行動をとりましたか。

(自由記入欄)

(問 18 で 4、5 または 6 と回答された方、お答えください)

問 20 セクハラをなくす、または、防止するためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。

(自由記入欄)

問 21 これまで職場でパワハラ(パワー・ハラスメント)だと感じたことはありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

- 1 自分が被害を受けたことがある ⇒問 22 へ
- 2 他の人が被害を受けたと聞いたことがある ⇒問 22 へ
- 3 他の人が被害を受けたことを見たことがある ⇒問 22 へ
- 4 自分では自覚していなかった行為や言動を、パワハラだと指摘されたことがある
⇒問 23 へ
- 5 承知の上でパワハラをしたことがある ⇒問 23 へ
- 6 パワハラを受けたり、見たり、聞いたりしたことはない ⇒問 23 へ

(問 21 で 1、2 または 3 と回答された方、お答えください)

問 22 実際にパワハラ被害を受けたり、相談を受けたり見たりした後で、あなたはどのような行動をとりましたか。

(自由記入欄)

(問 21 で 4、5 または 6 と回答された方、お答えください)

問 23 パワハラをなくす、または、防止するためにはどのような取組みが必要だと思いますか。

(自由記入欄)

6 性的マイノリティについて

問25 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向※に悩んだことがありますか。また、友人・知人等から、同様の相談を受けたことがありますか。
それぞれ1つ選んでください。

※性的指向 (Sexual Orientation) …人の恋愛・性愛がどういう対象に向かうのかを示す概念

	悩んだことがある	悩んだことがない
①自分自身	1	2
	相談を受けたことがある	相談を受けたことがない
②知人・友人等から	1	2

問26 現在、性的マイノリティの方々にとって、偏見や差別などにより生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 思う
- 2 どちらかと言えと思う
- 3 どちらかと言えは思わない
- 4 思わない

問27 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々も生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。
あてはまるものを2つまで選んでください。

- 1 行政が市民等へ周知啓発を行う
- 2 相談窓口等を充実させ、その存在を周知する
- 3 生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う
- 4 法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取組を明記する
- 5 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
- 6 働きやすい職場環境づくりの取り組みをする
- 7 わからない
- 8 その他 ()

7 推進のために必要な取り組みについて

問 28 男女共同参画と多様な性を尊重する社会を実現するための市の取り組みについて、
ご意見・ご質問等がありましたら、ご自由にご記入ください。

(自由記入欄)

ご協力ありがとうございました

※ご記入が終わりましたら、人権・ダイバーシティ推進課までご提出をお願いします。
提出期限は、8月31日です。